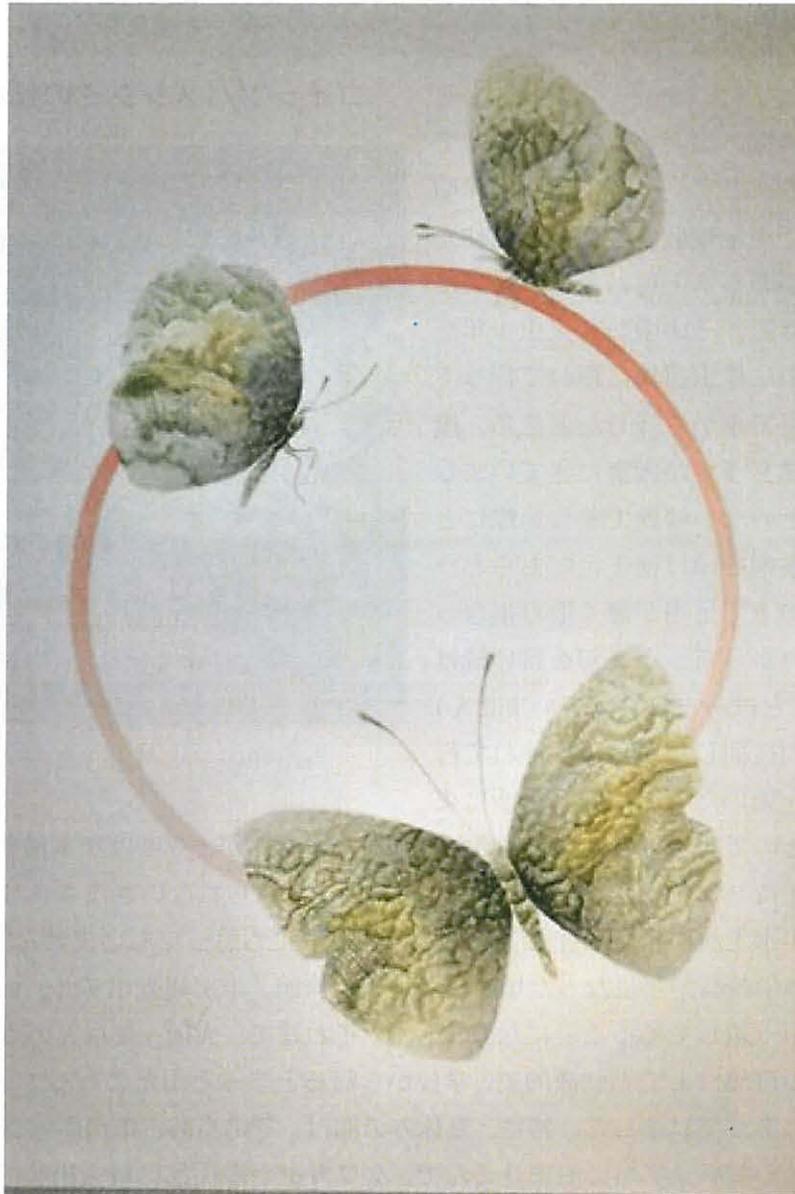


ゴイシツバメシジミの郷



ゴイシツバメシジミと原生照葉樹林のアート展 第一回大賞作品
森田 利喜代 作

ゴイシツバメシジミの郷を守る会 事務局

〒868-0701

熊本県球磨郡水上村岩野 2678 岩野公民館内

電話：0966-44-0333 F A X：0966-44-0329

今回は、当方（西）が「市房山の蝶」について執筆させていただきました。当方、生まれは東京ですが、市房山の蝶との関わりは小学校時代に遡ります。そして、未だに市房山と深く関わっていることに不思議な縁を感じますとともに、ゴイシツバメシジミの保護活動はある意味天命かな？という気持ちで、現在、会の活動を行っております。その縁深い市房山のゴイシツバメシジミ以外の蝶について自身の体験を基に記しましたので、是非ご一読ください。

市房山の蝶の現状

市房山の蝶との初めての出会いはとても鮮烈で今でもはっきり覚えています。それは、1970年頃の話です。当方がまだ小学校低学年で大阪に住んでいた頃、父の実家がある水上村に夏休みに父に連れられて里帰りした際、その頃から昆虫少年だった私を、父が市房山に昆虫採集に連れて行ってくれました。車道終点で車から降りたところ、崖の上の花に「アサギマダラ」が吸蜜にきていました。それまで見たことのない綺麗で美しい蝶にとっても興奮し、父に補注網を預け捕まえてもらおうとしたのですが、崖の上で足場が悪く取り損なってしまいました。それからずっと文句を言い続けていたらしく（そのことはあまり覚えていません）、根負けした父が数時間後同じ場所に再度連れて行ってくれたのですが、驚いたことに同じ場所にまたアサギマダラがいたのです。同じ個体かどうかはわかりませんが、今度は無事捕獲することができ、宝物のように大切に大阪まで持ち帰りました。その後も、市房山で忘れられないさまざまな蝶との出会いがありますが、その時はまさか水上村に自分が住むことになるとは夢にも思ってもいませんでした。

ところが、当方が小学校高学年になった頃、父が地元の旅館「市房観光ホテル」の経営に着手し、家族揃って東京から水上村に引っ越してくることになりました。それまで、大阪、東京という都会にしか住んだことがなかったため水上村の自然はとても刺激的で、学校から帰るとずっと山にこもって、昆虫をはじめ、魚や鳥などあらゆる生物と触れあっていました。特に、夏休みの間は、その当時、市房キャンプ場の経営も父が行っていたこともあり、ずっとキャンプ場に泊まりこんで、クワガタや蝶採集に精を出していました。因みにその頃は今よりはるかに虫の数が多く、クワガタは虫かごに入りきれないくらい採れるので、虫かごの代わりにバケツを使っていたのを覚えています。また、市房キャンプ場に居ると、全国からいろいろな昆虫愛好家の人たちが来られ、まだ小学生だったので来られた大人の人たちにいろいろ教えてもらいました。中学校の頃は部活動などもあり、あまり市房山の蝶を追いかけることもなく高校に進学。高校は人吉という水上村から車で1時間ほどの町にあり、寮生活をしていたため水上村にはほとんど帰らず、それ以来、市房観光ホテルを継ぐために水上村に帰ってくるまで水上村を離れていたため、市房山の蝶の観察はお預けとなりました。

それから時は流れ2008年、30年ぶりに水上村に帰ってきて以来、自分なりに市房山をはじめ水上村の蝶を調査した結果を30年前と比較し、市房山の蝶の現状を自分なりにまとめてみます。

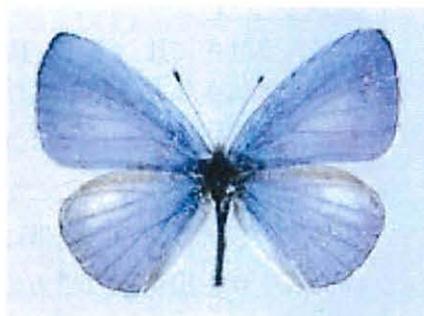
ゴイシツバメシジミの郷を守る会 西 和人



当館庭のフジバカマに飛来したアサギマダラ♂

タッパンルリシジミ

ところで、市房山の蝶といえば今でこそゴイシツバメシジミが有名ですが、ゴイシツバメシジミが発見される前（ゴイシツバメシジミは1973年に発見されました）までは、「タッパンルリシジミ」が生息する山として有名でした。タッパンルリシジミとは日本の蝶の中で唯一生態が解明されていない蝶であり、最も珍しい種類と言えます。当時、昆虫採集を行う際、皆がバイブルとしていた京浜昆虫同好会編 昆虫採集案内の中でも市房山の項ではタッパンルリシジミが写真とともに紹介されており、霧島の高千穂峰とともに「山頂」で採集できると記載されていました。当然、市房を訪れる昆虫愛好家の中ではタッパンルリシジミ目当ての人もたくさんいました。その頃、タッパンルリシジミは市房山のどこで採集されていたかという、当方は、蝶愛好家の友人とともに1970年後半に採集を行った際山頂で♂を1頭採集しましたが、当方の友人はキャンプ場近くの山道で吸水中の♂を1頭採集しました。また、当時、タッパンルリシジミを目的に訪れた愛好家も山道で吸水中の♂を採集したのを覚えています。当方、友人ともに簡単にタッパンルリシジミを採集できたので、当時はそれ程珍しいという感覚はありませんでした。唯、今と大きく違うのは、市房山キャンプ場から車道終点まで舗装されておらず、当時はルリシジミの集団吸水が多数見られたため、ルリシジミに交じって、サツマシジミやタッパンルリシジミを観察することができました。今は、舗装道路となったためか？ 集団吸水を見ることはまったくなくなり、ルリシジミの数も激減しました。2006年に水上村に帰ってきてから、市房山を訪れる度気を付けて観察をしていますが残念ながらタッパンルリシジミを見たことはありません。ルリシジミもかなり少なくなり、サツマシジミをたまに見かける程度になりました。今でもタッパンルリシジミは市房で生息しているのでしょうか？ タッパンルリシジミは迷蝶という説が最近では有力のようなので、迷蝶であればいつかまた見かける日が来るかもしれません。これからも幻の蝶、タッパンルリシジミを追いかけ続けていきたいと思えます。



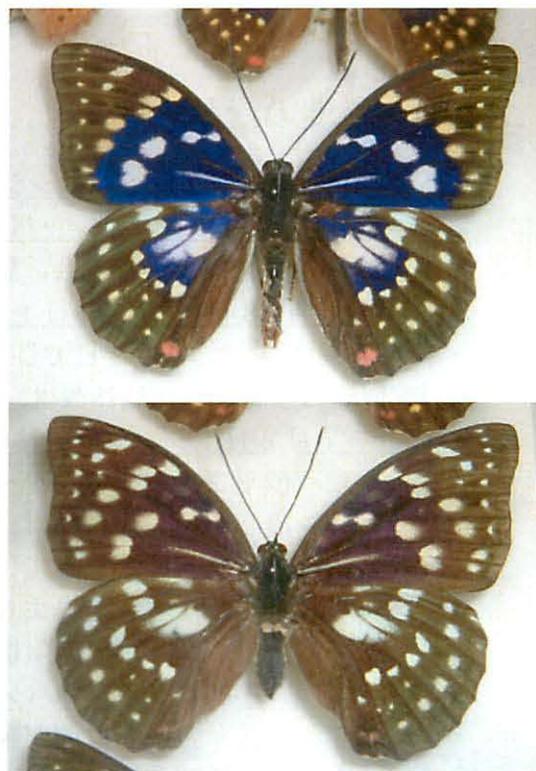
オオムラサキ

小学生から中学生にかけて、市房山キャンプ場で忘れられない思い出とともに出会ったのがオオムラサキです。水上村のオオムラサキの特徴は、南限に近い個体であるため裏面が灰色の個体が多く（黄緑色の個体も多少は見ることはできますが）大型であるということです。表翅の赤紋が消失する「スギタニ型」も見ることができます。市房山ではキャンプ場周辺に分布しており、以前よりかなり数は減りましたが、今でもゴイシツバメシジミの観察ポイントでも見ることができ、その雄大な飛翔の姿を見ると心が躍ります。

また、水上村ではほぼ全域に分布しているようですが、数は多くありません。当館（市房観光ホテル）庭にも、エノキが数本植えてありますので、冬になると落ち葉を調査していますが、今のところゴマダラチョウの幼虫ばかりでオオムラサキの幼虫を確認したことはありません。いつか、庭のエノキでも繁殖が確認されるのを楽しみにしています。



エノキの葉裏で越冬中のオオムラサキ幼虫。市房山登山口付近にて。



水上村産のオオムラサキ。
上が♂、下が♀

コムラサキ

オオムラサキに比べると、街の中でも見かけることができ全国的に広く分布していますが、水上村のコムラサキは黒化型の「クロコムラサキ」が混ざるのが特徴です。クロコムラサキは全国的に見ても、ごく一部の限られた地域でしか見ることができないため、水上村に来て初めて見たときは感激しました。南九州には広く分布するとのことですが、村内のクロコムラサキ出現率は当方の感覚では 50%ほどです。村内では至る所で見ることができますが、こちらも個体数はそれほど多くはありません。コムラサキは、当館庭の柳でも発生しており冬に越冬幼虫も確認できます。



当館庭のバナナトラップに飛来したクロコムラサキ♂。

ところで、クロコムラサキの分布は何故限られているのでしょうか？ ずっと疑問なのですが、そのことを取り上げた論文はまだ見たことがありません（ご存知の方は教えてください）。

当方の思いつきの仮説では、もともとクロコムラサキは全国に分布していましたが、優性遺伝を持つ通常のコムラサキが日本の真ん中あたり？ から広がり、優性遺伝であるため全国的に通常のコムラサキが分布を広げ、まだ影響を受けていない端っこにクロコムラサキが残ったのではないかと勝手に想像しています。



上がクロコムラサキ♂
下が通常のコムラサキ♂

2017 年度の活動内容

2017 年 6 月：「ゴイツバメシジミの郷を守る会」会報第 5 号 発行・送付

2017 年 6 月 13 日：「ゴイツバメシジミの郷を守る会」第 5 回総会@市房観光ホテル

・午後 5 時より、役員会、総会、懇親会を行いました。

2017 年 6 月 18 日～8 月 26 日：ゴイツバメシジミ定点観察

・2017 年の初見は、7 月 2 日でした。但し、確認したのはゴイツバメシジミ監視員の中島氏です。

・観察期間に確認できた個体数は、昨年より多かったため一安心です。引き続き調査を継続いたします。

2017 年 7 月 2 日：シシンラン移植作業

・会の小松 慎平さんがプランターで育てられたシシンランをソーメン流し小屋の屋根に植え付けました。ソーメン流し小屋の屋根には、かつて自然繁殖のシシンランが多数生えていましたが、現在は、他の植物に占領された状態となっていました。そのため、今回、すべての植物を撤去した後、シシンランを植え付けました。これまであまり知られていないゴイツバメシジミの生態観察が可能になることを期待し、今回、ソーメン小屋の屋根を移植場所として選定しました。

2017 年 7 月 30 日：ゴイツバメシジミ観察会 @キャンプ場周辺

・今年も昨年同様、会からは西が観察会講師として、ゴイツバメシジミについての説明とともに観察会を行いました。新聞の取材も行っていただきましたが、今回も観察会では残念ながらゴイツバメシジミを観察することはできませんでした。参加者は 6 名でした（最終ページの新聞記事参照）。

2018 年 2 月 20 日：九州中央山地希少野生生物保護管理対策調査業務検討会

・恒例のゴイシツバメシジミの保護活動に関する検討会が今年も人吉の九州森林管理局で開催されました。今回は、ゴイシツバメシジミの観察数減少についての意見交換が行われました。以前から指摘されていることではありますが、ゴイシツバメシジミの保護増殖施設の設置を真剣に検討する必要があると思われます。当会からの出席者は、顧問の三枝先生、杉本氏、中原氏、および西、岩崎が出席しました。

*今年も6月～8月に定点観察は行いましたが、詳細は次号に記載いたします。

会員構成 (2018年5月31日現在)

- ・個人正会員：17名
- ・個人賛助会員：14名
- ・法人会員：1団体
- ・顧問：2名
- ・事務局：1名（水上村教育委員会教育課内）

お知らせ

会員募集

個人正会員、個人賛助会員、法人会員を大募集しております。それぞれの年会費は以下の通りです。

- ・個人正会員：2,000円（会の趣旨に賛同される個人、かつ会の活動に参加可能な方）
- ・個人賛助会員：2,000円（会の趣旨に賛同される個人。但し会の活動に参加するのが困難な方）
- ・法人会員：5,000円（会の趣旨に賛同される法人）

会員登録された方には、毎年発行する広報とゴイシツバメシジミ観察会へのご案内等、保護活動に関する情報をお知らせ致します。申し込み希望の方は、事務局までお問い合わせ下さい。

広報原稿大募集

広報に記載する原稿を、会員の皆さまから募集しております。ゴイシツバメシジミに関わらず、環境保全や市房山に関する記事でしたら何でも構いませんので是非ご投稿下さい。

後記

・毎年6月に発行して参りました会報が、今年は大幅に遅れて申し訳ございませんでした。毎年6月に入ると慌ててまとめているのですが、今年はその時間もままならず、ようやくまとめることができたのは秋に入ってからでした。

・今号は、当方が子供だった頃（30年～40年ほど前）と10年前に帰ってきてからの市房山の蝶たちの思い出を綴らせていただきました。昔と今の違いで一番感じるのは、「蝶の数が減った」ということです。市房山に限って言えばその原因は、車道の舗装化や、標高が高い場所では鹿の害による生態系の変化などがあげられます。唯、キャンプ場周辺の蝶の減少ははっきり原因がわからないのは不気味です。虫の数が減っているというのは、これまでも度々この会報でも述べてきました。原因が分かれば対処法もありますが、原因が分からなければ祈るしかありません。今は、これ以上虫の数が減らないよう祈るような気持ちです。

・では、我々の活動の原点である「ゴイシツバメシジミ」はどうか？ というと、年により個体数の変動はありますが、今のところ明らかに数を減らしているという感じは受けません。因みに、今年夏の観察では、昨年より多くの個体を観察することができました。唯、いつ何時個体数が激減するか分かりません。実際、国内では絶滅寸前の種類が何種もいるようです。ゴイシツバメシジミがそのようなにならないよう、今後も注意深く見守っていきたいと思いますので皆様のご協力よろしく願いいたします。

国内では2カ所で見ることができなくなった国指定天然記念物のチョウ「ゴイシツバメシジミ」の観察会が先月30日、生息場所の一つ、水上村の市房山麓で開かれたが、2年連続で確認できなかった。

保護活動を通して、自然の素晴らしさや重要性を発信する活動を



ゴイシツバメシジミを探す参加者

水上村市房山

やはり幻!?姿見せず

ゴイシツバメシジミ観察会

行っている「ゴイシツバメシジミの郷を守る会(西和人会長)の主

同村観光協会発刊の冊子「未来につなぐ村の宝」で取り上げられているゴイシツバメシジミは、昭和48年に日本で初めて市房山で発見。

成虫の羽の裏側には囲碁の碁石を並べたような模様があり、羽を広げたときに両方の前

羽を結んだ長さが約2センチ。この羽は7月2日に初確認された。

国内では、同村と山都町の内大臣峡の照葉樹林の原生林だけに生息し、環境省の絶滅危惧I類という最も絶滅する可能性が高い種類に指定。幼虫が食べる餌の植物はシンシラ

観察会は5回目、球磨郡内、熊本市のほか、千葉県から5人が参加した。西会長は「ゴイシツバメシジミが生きているのは、照葉樹林の原生林が残っている証し」などと講話。

先発隊として会員2人がゴイシツバメシジミを探しに行ったが、発見の連絡はなく、直接現場に。確認される可能性が高い場所まで移動し、双眼鏡や望遠レンズのカメラで目を

球磨版

球磨総局

あさぎり町免田東3156-2
電話 (0966)45-1110
FAX (0966)45-0399

風味芳醇
晚酌には
松の
水

あさぎり町上北1-6番地1
0966-45-1118

販売取次所

- | | |
|---------|---------------|
| 大川商店 | 044-0126 |
| 米本商店 | 046-1010 |
| 栗須販売店 | 043-3223 |
| 松尾販売店 | 045-3468 |
| 蔵座販売店 | 047-0203 |
| 平川販売店 | 090-5489-4751 |
| 恒松販売店 | 045-2024 |
| ニューつねまつ | 038-1003 |
| 松田酒店 | 038-0035 |
| 子守唄の里五木 | 037-2301 |
| 岩崎理髪店 | 033-0021 |
| 徳益食店 | 024-4011 |
| 留宿店 | 023-4974 |

本格米焼酎

白雫

熊本県人吉市合ノ原町498番地
高橋酒造株式会社
tel:0966-24-7726(本番機掛断)
http://www.hakutake.co.jp

凝らしたが、時間内には確認できなかった。西会長は「2年連続で確認できなかった。本当に幻。来年は時間帯を変えてみたい」、昨

年に続いて参加した小川一弥さん(75)は「球磨村渡」は「見たかったですが、残念です」と話した。